

はしがき

法律文化社の「18歳から」シリーズは、大学新入生を対象に、高校までの“勉強”とはひと味違う“学問”のおもしろさを感じてもらおう入門書と位置づけられています。

さらに、本書『18歳から考えるワークルール』には入門書という性格に加え、実践的に役に立つ情報や知識を提供しようというねらいを込めています。それは、私たちが生きていくために、働くことは不可欠の活動だからです。学生時代にアルバイトを経験していなくとも、大学を卒業する段階でほとんどの学生が就職することになるでしょう。

どのように働くかは、人によって様々ですし、雇用のあり方も身分の安定している正規雇用と、期間を限定して雇われるなど不安定な立場で採用される不安定雇用とに二分されます。雇用者5000万人のうち、非正規雇用は35%前後を占め、特に若年層で非正規雇用の割合が高くなっています。また、正規雇用だからといって、必ずしも労働条件が良好だとは限りません。転職の可能性が高く、労働時間も長時間となりがちです。仕事のストレスでうつ病になることもめずらしくありません。

このように、学生時代のアルバイトも含めると、老齢年金で生活するようになる(?) 65歳までのほぼ40年間、私たちはワークルールと密接に関係することになります。そこで本書では、働くことを次の5つのフェイズに分けました。Ⅰ仕事をはじめ、Ⅱ働く、Ⅲ働き続ける、Ⅳ仕事をやめる、そしてⅤ職場のトラブル、です。本書はこれらのフェイズをさらに細分化して、それらに関連するワークルールの解説を試みています。

本書で扱っているワークルールは、アルバイトやヒセキだけでなく、正社員にも関係するものです。したがって、学生時代のアルバイトだけでなく、就職活動にも関係しますし、正社員になってからも、あなたが疑問に思ったことに対する解決に向けた考え方を示しています。この意味で、本書は大学を卒業して就職した後にも役に立つことを願って編集しました。

また、ワークルールのなかでも大きな役割を果たす就業規則と労働協約については、当初、本書のなかで参考例を掲載することを検討しました。しかし、紙幅の問題もあり、これらは法律文化社のHPで紹介することになりました。学生のみなさんは、おそらく見たこともさわったこともないと思いますが、ぜひとも覗いてみてください。

本書の編集については、企画段階から、法律文化社編集部の小西英央さん大変お世話になりました。就業規則や労働協約をHPに掲載するというアイデアも小西さん抜きには実現しませんでした。ここに、あらためてお礼を申し上げます。

編者 道幸哲也
加藤智章